

画期的なIoTスマートリサイクルボックス(ゴミ箱)「SmaGO」を提供している株式会社フォーステック。いまや海洋汚染の原因の8割が街から海へ流れ出るプラスチックごみなどと言われていす。拡大するインバウンドによる観光公害も目立つようになる中で、街と企業と人々が一体となってゴミ問題を解決できるSmaGOについて、株式会社フォーステック 新規事業開発室長 原 周平氏に解説していただきました。

point **太陽光で稼働、大容量な圧縮、ゴミの状況もリアルタイムで把握**

SmaGOには、大きな3つの特徴がある。1つは環境に優しい太陽光発電で動くことだ。天面にソーラーパネルがあり、そこで発電・蓄電する。月に最低8時間の日照だけで作動する特許技術により、天候不良の心配もない。また屋内で使用できるAC電源付タイプも用意。

● SmaGOの3つの特徴

- 1 環境にやさしい **ソーラーで発電し蓄電**
- 2 ゴミが溢れない **ゴミが溜まると自動で約1/5に圧縮**
- 3 回収コスト削減 **通信機能でリアルタイムにゴミの蓄積状況を管理・分析**

2つ目の特徴は、本体内に565kgの力がかかる圧縮板があり、ゴミが溜るとセンサーが働いて、自動的に約1/5までゴミを押しつぶしてくれる。従来の5倍のゴミを収容できるため、ゴミの回収頻度も減るわけだ。

3つ目の特徴は、本体内のセンサーと通信機能により、タブレット・スマートフォン上のWeb画面や専用アプリから、ゴミの蓄積や回収の状況をリアルタイムで監視・分析・管理できること。さらにゴミが満杯になる前に、メールでアラートが届くので、必要なタイミングで効率的なゴミ回収が可能になる。

SmaGOには、前出のゴミ圧縮タイプ(125L/122kg)のほか、非圧縮タイプ(189L/68kg)も用意されている。圧縮する上で、ビンが割れてしまい回収が困難になったり、ペットボトルはキャップがついていると圧縮できないなどの課題があるためだ。そこで、ごみの分別区分に応じて、好きなタイプのSmaGoを組み合わせて使える。また、安全性や動物への対策も配慮し、完全密閉型で手が入らない構造にしている。ゴミを捨てる際は、非接触型でペダルを開閉できるため、細菌やウイルスなどの感染症にも対策されている。オプションだが消火フィルムもゴミ箱内部に付けられるため、火災が発生しても消火剤が反応して燃え広がりを防止する。

point **SmaGO導入を加速する広告収入モデルと、国の補助金制度の活用**

SmaGOはゴミ箱としての機能を提供するが、その導入や運用を後押しする工夫も凝らされている。それは屋外の「広告メディア」としての活用だ。筐体スペースに広告を貼り、その広告収入によって、ゴミ箱の設置や回収にかかるコストを安く抑えられる。

SmaGOを「屋外広告メディア」として運用することで、
ゴミ箱設置にかかるコストの削減を実現します。



設置主：表参道商店街様 / 協賛：日本特殊陶業様

また、国内では設置時の補助金を活用することも可能だ。オーバーツーリズムによるゴミのポイ捨て防止などの課題を解決するために、環境省や観光庁では補正予算を組んでいるが、来年以降も補助金の継続が見込まれている。

現在、SmaGOは全国の自治体や商業施設を中心に、約45カ所で400台以上が利用されている。全世界では60カ国、10万台以上が導入済だ。国内では広島県・宮島での事例がある。宮島は、名物の鹿に配慮して、ゴミ箱が2カ所しか設置されていないが、急激な観光需要のため、ゴミ分別も含めた対策として12台のSmaGOを設置。こちらは環境省の「ごみのポイ捨て・発生抑制対策等モデル事業」に採択された。また、大阪市道頓堀商店街でも計20台を導入。観光庁の「インバウンド受入環境整備高度化事業」として採択された。このように同社は各自治体のゴミ問題の適切な回収と、循環型社会の実現に取り組んでいる。



原 周平氏
株式会社フォーステック
新規事業開発室長

2010年、株式会社メタップスに入社。複数の新規事業を代表直下で立ち上げ、2015年のマザーズ上場へ貢献。2024年にフォーステックに参画。新規事業開発室長としてSmaGOの設置拡大に注力している。

問合せ先

一般社団法人SDGsデジタル社会推進機構(ODS)

info@ods.or.jp

※お問い合わせの際には「ウェビナー通信を見た」とお伝えください



ODS WEBサイト